救急救命学科　シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	44・45	外傷学Ⅱ
1年	55～60	救急救命シミュレーションⅡ
2年	76～80	救急救命シミュレーションⅣ

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
EM-2-TEM-02

科目名	外傷学Ⅱ			単位認定者	横山　亜矢		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2　単位	授業内課題等	20　%
						授業時間数	40　時間	受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	20　回		

授業の概要	外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学Ⅱ」では、骨盤外傷、四肢外傷のほか、小児・高齢者・妊婦の外傷や、熱傷、化学損傷、電撃傷・雷撃傷、縊頸・絞頸、刺咬症等の特殊な外傷について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。
到達目標	防ぎ得た外傷死を減らすための外傷に対応する知識を深め、説明できる。外傷学Ⅰ・Ⅱで学修した内容をシミュレーション等で実践することができる。
学修者への期待等	授業で学んだ内容をシミュレーション等で実践することができる。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、重要な項目のひとつだという事を念頭に置いて授業に臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	骨盤外傷①：疫学、受傷機転、病態	事前学修：P.740を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
2	骨盤外傷②：主な外傷	事前学修：P.740・741を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
3	骨盤外傷③：現場活動	事前学修：P.742・743を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
4	四肢外傷①：疫学、病態	事前学修：P.744・745を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
5	四肢外傷②：主な外傷	事前学修：P.745～P.748を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
6	四肢外傷③：現場活動	事前学修：P.748～P.751を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
7	小児の外傷：特徴、主な外傷	事前学修：P.752～P.755を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
8	高齢者の外傷：特徴、主な外傷	事前学修：P.755・756を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
9	妊婦の外傷	事前学修：P.756を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
10	骨盤外傷～小児・高齢者・妊婦の外傷まとめ	事前学修：P.740～P.756を読んでおくこと。 事後学修：1回～9回までの配布資料や小テストを再度確認すること。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間（分）	事後学修時間（分）
11	熱傷①：疫学と受傷機転、病態	事前学修：P.757・758を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
12	熱傷②：注意を要する熱傷、評価	事前学修：P.758～P.761を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
13	熱傷③：現場活動	事前学修：P.761・762を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
14	化学損傷①：各種の化学損傷	事前学修：P.763～P.766を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
15	化学損傷②：観察、処置	事前学修：P.766～P.768を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
16	電撃症・雷撃症	事前学修：P.769～P.774を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
17	縊頚・絞頸	事前学修：P.775～P.777を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
18	刺咬症（傷）①：哺乳類、爬虫類	事前学修：P.778～P.780を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
19	刺咬症（傷）②：節足動物、海洋生物	事前学修：P.780～P.782を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
20	熱傷～刺咬症（傷）まとめ	事前学修：P.757～P.782を読んでおくこと。 事後学修：11回～19回までの配布資料や小テストを再度確認すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	☑該当なし □該当あり：キーワード（　　）			
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
参考文献	『JPTECガイドブック』 一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版			
備考				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
EM-2-CLP-02

科目名	救急救命シミュレーションⅡ			単位認定者	田中　耕一		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	5　単位	授業内課題等	20　%
						授業時間数	150　時間	受講態度	20　%
				授業形態	演習	授業回数	75　回		

授業の概要	「救急救命シミュレーションⅠ」で修得した技術をもとに、各救急救命処置についてその目的を理解し、各処置における手技の基本を体得する。また、各救急救命処置に対応した必要資材、機材の使用法や注意点等を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術を、シミュレーションを通して身につける。
到達目標	・救急救命士の全基本手技を修得する。 ・観察、接遇、特定行為を含めた処置の判断、指示要請、準備、処置、評価、報告の一連の救急活動を修得する。 ・シミュレーションⅠで修得した内容を含め、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できる。
学修者への期待等	・演習は、ペアまたは小グループで行う。 ・授業は主に実技を実施するので特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。 ・救急救命士標準テキストを持参する。 ・演習で使用する訓練用人形は、実際の傷病者を想定して取り扱い、救急活動に携わる者として適切な態度で臨むこと。 ・学生同士で積極的にコミュニケーションを図り、協力して演習に取り組むこと。 ・事前にテキストやUNIPAに掲載された資料を事前に確認し、主体的に演習へ参加することを期待する。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	基本手技・総合演習 （気道確保、酸素投与、人工呼吸、声門上気道デバイスを用いた気道確保、気管挿管等）	事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第２章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口　雅司 田中　耕一 ~~佐藤武論毅~~ 菊地　芽唯
2	基本手技・総合演習 （胸骨圧迫、電気ショック、静脈路確保、ブドウ糖投与等）		30	30	
3	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患		30	30	
4	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・外因性疾患		30	30	
5	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患・外因性疾患		30	30	
6	重症外傷傷病者に対する救急隊活動① 基本手技・外傷想定（頭部・顔面・頸部） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口　雅司 田中　耕一 佐藤武論毅
7			30	30	
8	想定訓練①（心肺停止・呼吸系疾患）	事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第３章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
9	想定訓練①（心肺停止・循環系疾患）		30	30	
10	想定訓練①（心肺停止・消化系・その他の疾患）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
11	重症外傷傷病者に対する救急隊活動② 基本手技・外傷想定（胸部・腹部・脊椎・脊髄） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 菊地　芽唯
12			30	30	
13	想定訓練②（呼吸不全・心不全） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第３章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武論毅 菊地　芽唯
14	想定訓練②（ショック） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
15	想定訓練②（重症脳障害） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
16	産婦人科領域の処置 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第２章「救急医学概論/救急救命処置概論」　第５章「疾病救急医学 14 妊娠・分娩と救急疾患」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武論毅 菊地　芽唯
17	産婦人科領域の処置 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
18	想定訓練③（呼吸不全・心不全） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第３章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
19	想定訓練③（ショック） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
20	想定訓練③（重症脳障害） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
21	重症外傷傷病者に対する救急隊活動③ 外傷想定（腹部・骨盤） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 ~~佐藤武論毅~~ 菊地　芽唯
22			30	30	
23	想定訓練④（意識障害・頭痛） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第４章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
24			30	30	
25			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
26	重症外傷傷病者に対する救急隊活動④ 外傷想定（四肢外傷） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 菊地　芽唯
27			30	30	
28	想定訓練⑤（痙攣・運動麻痺・めまい） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第４章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
29			30	30	
30			30	30	
31	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑤ 外傷想定（小児・高齢者・妊婦） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 菊地　芽唯
32			30	30	
33	想定訓練⑥（呼吸困難・喀血・胸痛・動悸） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第４章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
34			30	30	
35			30	30	
36	災害医療・多数傷病者・トリアージ （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第１章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 菊地　芽唯
37			30	30	
38			30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
39			30	30	
40			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
41	想定訓練⑦（一過性意識消失と失神・体温上昇） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第４章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅
42			30	30	
43	想定訓練⑧（腹痛・吐血・下血・腰痛・背部痛） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
44			30	30	
45			30	30	
46	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑥ 外傷想定（熱湯・化学損傷） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
47			30	30	
48	想定訓練⑨（小児・高齢者） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第５章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
49	想定訓練⑨（小児・高齢者・妊娠・分娩と救急疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
50	想定訓練⑨（妊娠・分娩と救急疾患・精神障害） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
51	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑦ 外傷想定（電撃傷・雷撃傷） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
52			30	30	
53	想定訓練⑩（循環系疾患） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第５章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
54	想定訓練⑩（消化系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
55	想定訓練⑩（代謝・内分泌・栄養系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
56	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑧ 外傷想定（縊頚・絞頚・刺咬症） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
57			30	30	
58	想定訓練⑪（血液・免疫系・筋・骨格系疾患） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第５章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
59	想定訓練⑪（泌尿・生殖器系疾患・感染症） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
60	想定訓練⑪（眼・耳・鼻・皮膚系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
61	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑨ 外傷想定（小児高齢者・妊婦） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 菊地　芽唯
62			30	30	
63	想定訓練⑫（環境障害・急性中毒） 環境障害・急性中毒想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第７章「急性中毒学・環境障害」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
64			30	30	
65			30	30	
66	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑩ 外傷想定（全身外傷） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第６章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	~~堀口　雅司~~ 横山　亜矢 田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
67			30	30	
68	想定訓練⑬（神経系疾患） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第５章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
69	想定訓練⑬（呼吸系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
70	想定訓練⑬（循環系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
71	総合演習①（内因性疾患想定） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。 事後学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。	30	30	堀口　雅司 田中　耕一 佐藤武諭毅 菊地　芽唯
72			30	30	
73	総合演習②（外因性疾患想定） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
74			30	30	
75			30	30	

アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（演習、実技、グループディスカッション）
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第11版』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社 『JPTECガイドブック 改訂第2版補訂版』一般社団法人 JPTEC協議会編著、へるす出版社 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房
参考文献	『Ｅ.Ｍ.Ｔ Ｓupport Ｂook』山本保博（監修）、東京法令出版 『救急蘇生法の指針２０２０医療従事者用』へるす出版 『救急蘇生法の指針２０２０市民用・解説編』へるす出版
備考	授業の進捗状況および理解度に応じて、実施順序等を変更する場合がある。各項目の最終日には、学修効果の確認を行うことがある。授業時の服装は、特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。公安職および医療従事者を目指す学生としてふさわしい整容を心掛けて授業に臨むこと。フィードバックは各項目終了後、適宜実施する。授業内課題は~~実技試験~~基本手技評価（10%）、総合救急~~隊~~活動評価（10%）とする。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

・救急救命士として２５年以上の実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を指導する。
・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
EM-2-CLP-04

科目名	救急救命シミュレーションⅣ			単位認定者	堀口　雅司		評価の方法	試験（筆記）	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	救急救命学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	5　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	150 時間		受講態度	20　%
				授業形態	演習	授業回数	75　回			

授業の概要	救急隊を編成して様々な想定によるシミュレーションを行い、「救急救命シミュレーションⅠ」「救急救命シミュレーションⅡ」「救急救命シミュレーションⅢ」で修得した技術を向上させる。一連の救急救命活動について、出場、救急現場、観察、処置、搬送、医療機関収容等、総合的な訓練を実施し、より高度な資材、機材の使用法や注意点等の理解も図る。具体的な救急救命活動のシミュレーションにより、救急救命士として活動できる、実践的な能力や技術を身につけ、救急救命士としての倫理観を養う。
到達目標	・シミュレーションⅠからⅢで修得した知識、技術を踏まえ、緊急度・重症度の判断力を中心とした内容を修得する。 ・各班でプロトコール・活動基準を考慮した救急現場活動を理解する。 ・国家試験出題基準に沿う知識・技術を統合し、実践できる。 ・OSCE形式評価に対応し、時間内に安全で適切な処置を実施できる。 ・根拠に基づく口頭説明（同意・引継ぎ）ができる。 ・チーム医療の中で指導的役割を担う意識をもって行動できる。
学修者への期待等	・演習はペアまたは小グループで行う。 ・授業は主に実技を実施するので指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。 ・救急救命士標準テキスト等を持参する。 ・演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのもとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。 ・事前にテキストやUNIPAへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	国家試験・実技評価（OSCE） 方針説明／学習計画（弱点分析）	事前学修：国家試験出題基準の確認。 事後学修：個別学習計画を作成。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢
2					
3	基本手技・評価 （BLS/ALS／気道・呼吸管理）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 横山　亜矢 佐藤武諭毅 橋本　美菜
4					
5					

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
6 7	病院内における救急救命士の役割と活動 （院内救急/ドクターカー同乗/病院内特定行為）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢
8 9 10	循環・呼吸OSCE （心肺停止・不整脈・呼吸不全）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 佐藤武論毅 橋本　美菜
11 12	病院内での救急救命士の活動 （ER・院内急変対応・ドクターカー同乗シミュレーション）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 横山　亜矢
13 14 15	外傷OSCE （初期評価・止血・固定・ショック）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 横山　亜矢 橋本　美菜
16 17	病院内における救急救命士の活動 （病院間搬送・ICU/HCU連携・重症患者管理）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢
18 19 20	神経OSCE （脳卒中・けいれん・意識障害）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 佐藤武論毅 橋本　美菜
21 22	特定行為・気道管理・循環管理 重点整理	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 堀口　雅司 横山　亜矢 田中　耕一
23 24 25	中毒・環境障害OSCE	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 ~~佐藤武論毅~~ 橋本　美菜

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
26 27	外傷救急・JPTECプロトコール 重点整理 （多発外傷・骨折・熱傷等）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 ~~佐藤武論毅~~ ~~菊地　芽唯~~
28 29 30	小児・周産期・高齢者OSCE	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 佐藤武論毅 橋本　美菜 ~~菊地　芽唯~~
31 32	神経救急・意識障害・内科疾患 重点整理 （脳卒中・てんかん・内分泌疾患）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢
33 34 35	OSCE総合演習 （技術評価：気道確保）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。手技を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 横山　亜矢 橋本　美菜
36 37	災害医療・MCLS・CBRNE・救急医療システム 重点整理 （災害関連頻出項目）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一
38 39 40	OSCE総合演習 （技術評価：循環管理）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 横山　亜矢 ~~佐藤武論毅~~ ~~橋本　美菜~~
41 42 43 44 45	OSCE総合演習 （技術評価：現場活動手順）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 ~~佐藤武論毅~~ 橋本　美菜 菊地　芽唯 堀口　雅司 横山　亜矢 佐藤武論毅 橋本　美菜 菊地　芽唯

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
46 47	全分野横断重点整理 （主に観察評価・気道管理・呼吸・循環管理・病態生理）	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢
48 49 50	OSCE総合演習 （全技術・判断の総合演習）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口　雅司 横山　亜矢 橋本　美菜
51 52	全分野横断重点整理 （主に外傷救護・内因性疾患・災害医療・感染防護・医療安全・救急活動記録・病院前救護システム）	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 横山　亜矢 橋本　美菜
53 54 55	OSCE総合演習 （コミュニケーション・倫理観の総合演習）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	
56 57	症候別アプローチ （意識障害・頭痛・けいれん・運動麻痺・めまい・呼吸困難・喀血・一過性意識消失と失神・胸痛・動悸・腹痛・吐血・下血・腰痛・背部痛・体温上昇等）	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口　雅司 佐藤武諭毅 橋本　美菜
58 59 60					堀口　雅司 横山　亜矢 佐藤武諭毅 橋本　美菜
61 62 63 64 65	総合演習① （心肺停止：呼吸系・循環系・消化器疾患・その他、呼吸不全・心不全、ショック・血液分布異常性ショック等）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 ~~佐藤武諭毅~~ 橋本　美菜

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
66 67 68 69 70	総合演習② （重症頭蓋内損傷・脳卒中、産婦人科・小児・異常分娩、呼吸不全・心不全、ショック・アナフィラキシー、意識障害・頭痛・環境障害等）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 ~~田中　耕一~~ 佐藤武諭毅 橋本　美菜
71 72 73 74 75	総合演習③ （腹痛・消化器系疾患、泌尿器・婦人科疾患、神経疾患、代謝疾患、精神疾患・自殺企図等）	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。	60	60	堀口　雅司 田中　耕一 佐藤武諭毅 橋本　美菜
アクティブ・ラーニング	☐該当なし ☑該当あり：キーワード（演習　実技）				
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『標準多数傷病者対応MCLSテキスト』一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房				
参考文献	『Ｅ．Ｍ．Ｔ　Ｓupport　Ｂook』山本保博（監修）東京法令出版				
備考	各回の終了後にフィードバックと振返りを実施する。服装・整容・安全管理は指示に従い、実習用資機材・人形は実傷病者として尊重して取り扱う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置・判断を実施できるよう指導する。 ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。